

《沖縄協同病院の理念》

- 人権といのちの尊厳を守る、無差別平等の医療を行います。
- 地域と共に平和で健康に暮らせる、まちづくりを行います。

はいさい

沖縄協同病院・病院広報委員会

那覇市古波蔵4丁目10番55号

TEL.(098)853-1200

FAX.(098)853-1212

http://oki-kyo.jp

発行責任者 仲程正哲

さくらまつりに参加しました

去る2月8日、9日に行われた「漫湖公園さくらまつり in 福祉まつり」に参加してきました。

「さくらまつり」は古波蔵地域の自治会や通り会、学校関係者などが中心に運営され、今年で9回目を迎え、沖協、にじクリニックは2回目の参加となります。出展は、消防(スモーク体験)、警察(パトカー、ミニ白バイ展示)、大道中央病院の健康相談、整骨院、にこにこ整形(足の計測)など様々でした。

舞台もプログラムがぎっしりつまっていて、中でも空手の「バット折り・瓦割り」、こども達のダンス大会、人気のカラオケ大会など盛り上がっていました。

沖縄協同病院はにじクリニックと合同で「骨密度測定」「歯の健康相談」を8日、9日と行いました。2日目は小雨がぱらつき、あいにくの天気でしたが今年も昨年と同じくらい盛況となり、2日間で約180名の骨密度測定を行いました。

こくら虹薬局も「薬剤師体験」「ゲームコーナー」などを出展しており、こちらも盛況でした。

「沖縄協同病院」は古波蔵地域では、まだまだ新参者だと思います(5年目)。「さくらまつり」の様な地域のイベントを通して、少しずつ地域に根ざして行けたらと考えています。

今年も、昨年同様にご協力していただいた組織部、要員の皆様、テント設営などを手伝って頂いた皆様、本当にお疲れ様でした。

また来年もよろしくお願いいたします。

総務課長 平良顕治



病院の活動状況 <1月度>

- ・外来一日平均患者数:728人(前年同月比-34人)
- ・入院一日平均患者数:279人(前年同月比+9人)
- ・組合員利用率:52.3%(前年比+1.5%)

※前号は「2月度」と表示しておりましたが、正しくは「12月度」の誤りでした。訂正とお詫びを申し上げます。

新入職員紹介

内科医 本庄裕二郎



初期研修で研修させて頂いた本庄裕二郎と申します。2014年1月から沖縄協同病院の総合内科で勤務しています。初期研修後、静岡県の聖隷浜松病院で産婦人科として勤務していました。産婦人科も魅力的な科でしたが、研修の中で、患者さんに内科医として関わりたいと考え、沖縄協同病院で再び働かせて頂くこととなりました。現在は総合内科、地域医療や家庭医療に関わっていきたいと思っています。まだまだ勉強中ですのでご迷惑をおかけすることも多いと思いますが、今後ともよろしくお願い致します。

腹腔鏡下手術の変遷 ー開腹手術～腹腔鏡下手術～ロボット手術ー その②

いざ、変革

外科



〈前号からのつづき〉

一九八七年にフランスの婦人科医ムレ教授は、腹腔鏡下胆嚢摘出術に成功し、欧米の外科医を介して世界中に広まるきっかけとなりました。

日本では、一九九〇年に帝京大学の山川達郎教授により第一例目が行われました。その後、一九九一年頃から、大学病院を中心に広まる兆しがありました。ところが、従来の手術に慣れた年配の外科医が抵抗勢力となり(当時は年配ではありませんでしたが、私もその一人でした)。さらに腹腔鏡下手術に特有な合併症(手術によって引き起こされる患者さんに不利益となること)が起これば、腹腔鏡下手術そのものを完全に否定する外科医も現れ、「よからぬ手術」との意見もありました。

実際に先駆者である欧米の医師の中にも、この腹腔鏡下胆嚢摘出術は「労あつて益なし」と、普及や標準化を疑問視する意見もありました。ところがこの手術を受けた患者さんたちの回復が素晴らしく、口伝で評判が広がり、同手術を行う外科医の病院に胆石で悩む患者が集中するようになりました。こうして従来の開腹手術を圧倒し、瞬く間に市民権を得てしまったのです。一九九二年四月から保険適応になり、その後対象疾患はソケイヘルニア、虫垂切除術にとどまらず、胃・大腸に広げられ、現在ではあらゆる外科手術が腹腔鏡下に可能となりつつあります。また最近では、「ダ・ヴィンチ」と呼ばれる手術用ロボットも登場し、より細かい操作が可能になりつつあります。今や外科手術は腹腔鏡下手術をなくしては語れなくなり、最近では「Big incision, big surgeon」は死語となり、代わって「Small incision, big surgeon(偉大な医者は小切開で手術をする)」と言われるようになりました。

消化器センター長 外科医 仲地広美智

新春のつどい

2014年1月から2月にかけて「新春のつどい」が行われました。各地域、支部とも楽しく大盛況でした。



小禄地域



真和志三支部 合同



那覇支部



八重瀬地域



豊見城ブロック 五支部合同

沖縄協同病院医師研修理念

基本的診療能力を身につけることを第一の目標とし、患者を「一人の人間」として捉え、「患者の幸せ」を追求できる医師を養成します。



虹の箱とは患者さまの声を医療活動に反映させていくための投書箱です。

投書

2月2日から原因不明の高熱で、2月3日、5日、6日と三度目受診時の検査で病名が判明。2月6日～15日まで、4階で入院。最初は4人部屋に1人でさみしかったけど、402号室に移ってから、4人で意気投合して楽しい入院生活を過ごすことが出来ました。

医師の説明も看護師の対応もすごく良かったです。食事もおいしかったです。院長先生もマメにまわってきて声かけしてくれて良かったです。

回答

退院おめでとうございます。入院生活を楽しく過ごすことができたようで、何よりです。私達も皆様からの言葉が何よりの励みになります。

どうぞ無理せず体調を崩されないようお過ごしください。

4階病棟師長 玉城和美

循環器内科：仲宗根卓医師の外来

2014年3月14日より毎週金曜日 午前の外来 → 午後へ変更になります。

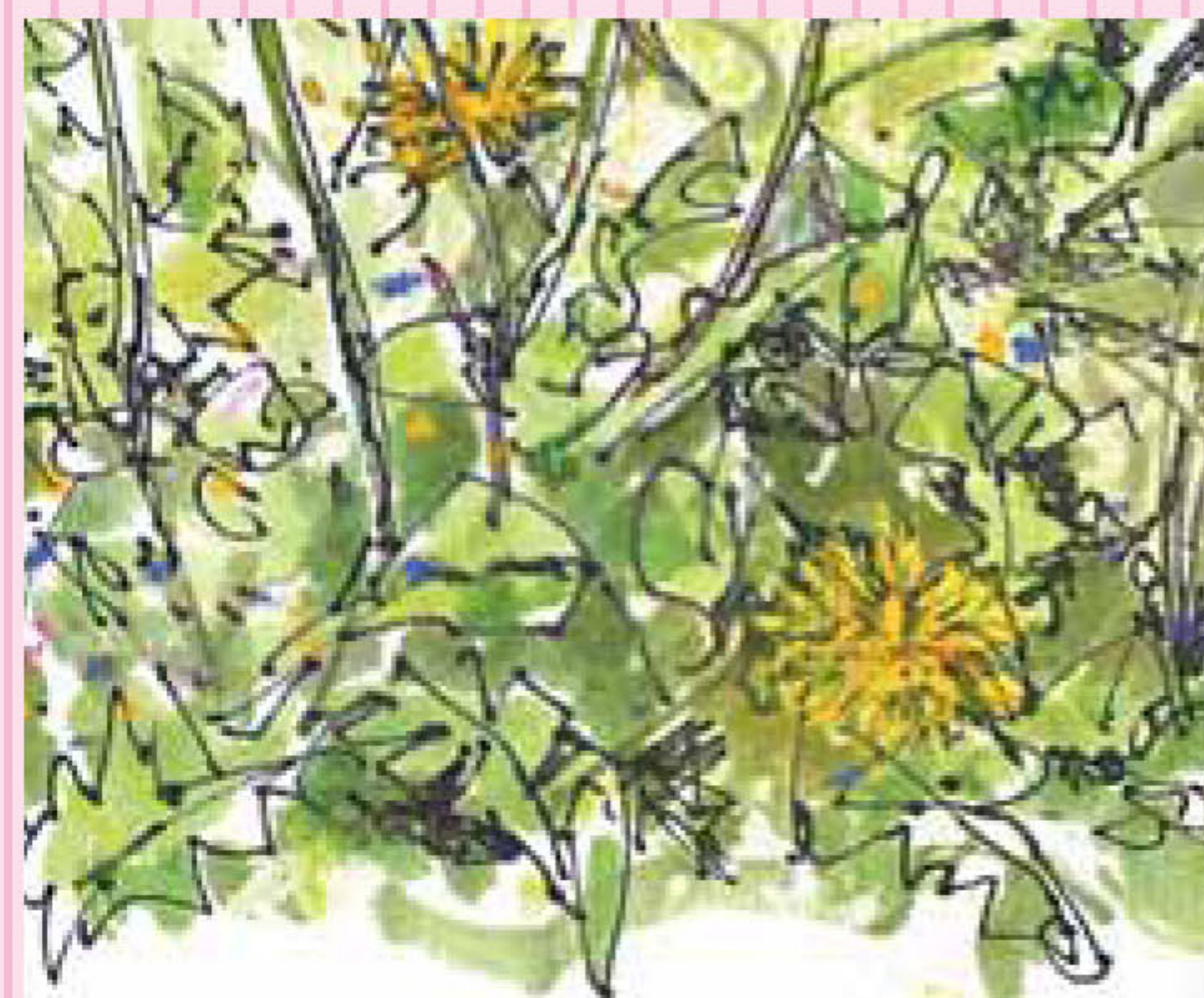
＜診療開始時間・受付終了時間＞

午前/9:00 ~ 12:00 午後/13:30 ~ 16:30

季節の神絵

「足もとの春、
今たけなわ」

画・内科医
上原和博



おきなわの自然⁴⁵

キンム(キャッサバ)

二十年前前に土地改良をするまでは畑の隅に植えられているキンムをよく見かけた。我が家でも植えていたような気がするが食べたことはなかった。初めてキンムを食べたのはやんばる育ちのオバアの家である。今でも遊びに行く度に

やんばる料理でもてなしてくれる。たまにキンムのように初めて口にすると感動する。そしてキンムやクシキン(クスウコン)のような店に出回っていないのは畑に植えるよう命令が下り、せつせと栽培するのである。特に生キンムは収穫後七十二時間で、皮を剥いたらすぐに傷み始めると言われているので自分で作るしかない。挿し木の枝を獲している途中にフィリピンで事故が起きた。キンム澱粉でんぷんで作った菓子で二十七名の生徒が死亡したと報道されたのである。後になつて原因は農薬だった(キンム澱粉と間違えて使ったと伝えられたがもう栽培する気は失せていた。しかし、どうしてもあの味が忘れられないので、栽培することにした。

キンムの和名はキャッサバでその澱粉を加工したのがタピオカである。方言名のキンムは木芋で地上部が木に似ているため。苦味種と甘味種があり、両方とも青酸毒を含む。特に苦味種は全草に毒があるので、毒抜きして澱粉にして利用される。世界のイモ類でジャガイモの次に澱粉生産量が多いという。甘味種は水にさらして加熱処理をしてから調理する。キンムの澱粉は水分をなかなか放さないのて食感はおもちもちして味のしないサツマイモに似ているが、一度食べるとまた食べたくなる味である。

キンムは悪環境下(乾燥地、酸性土壌、貧栄養土壌)でも育つことから「食糧問題」や「温暖化問題」の解決に期待されている。現在、バイオ燃料としてトウモロコシやサトウキビが利用されているが、キンムも注目されている植物である。生産地では「貧者の食糧」の蔑称(へっしよつ)を与えられているが、「人類の救世主」になるかもしれない。

さて、十一月には県知事選挙があるが、新しい知事には県民の総意を裏切らない「沖縄の救世主」として相応しい人を選びたいものである。

とよみ生協病院
事務課長 金城稲子

